

第4回 歴史資料館（仮称）検討有識者会議

日 時 平成16年7月28日（水）午後6時～8時

場 所 総合体育館2階「クレア」

出席者 土屋市長、小池牧子委員、小林真理委員、中里崇亮委員、西脇康委員、船崎尚委員

1. 有識者会議の設置期間延長について

（平成17年3月31日までの延長を了承）

2. 意見交換及び提案

【市長】

配付資料の「武蔵野市にゆかりのある人物一覧」は武蔵野市に住んでいる人のリストか。

【事務局】

在住とは限らず、武蔵野市にゆかりのある人ということでピックアップしている。

【委員】

漫画家が多い。みんな高名な方ばかり。

【委員】

武蔵野在住者もいるのか。

【事務局】

漫画家は割と在住者が多い。

【委員】

ときどき歩いているのを見かける。

【市長】

じゃあ、“漫画家が住みやすいまち武蔵野”というキャッチフレーズで（笑）

【事務局】

花村萬月も「吉祥寺物語」とかで武蔵野のことを書いている。

【市長】

「GTO（グレーント・ティーチャー・オニズカ）」もそうだ。

【委員】

こういう方々は、市のプロジェクトに協力してくれるのか。

【事務局】

場面場面によると思うが、講演などをお願いできるかもしれない。

【委員】

コーディネートが大変そうだ。とくに複数の方を扱う場合は。

【委員】

集客の方法について、こういった有名な方たちを呼べば、集客はかなりあると思う。リストに漫画家の人が多いが、漫画家といつても私たちの世代にとっては、文学と同じ

ようなものだ。大島弓子さんなどは尊敬に値するすごい方。歴史資料館とは直接関係はないかもしれないが、こういう方達が住んでいるまちで、ここから作品を生み出していくということだけで価値がある。

【委員】

住んでるだけではなくて、こういう人たちが、武蔵野のまちを描いている。

【委員】

江口寿さんはうちの近所のアパートを描いていてびっくりしたことある。ここに出てる漫画家さんは全国誌で描いている人たちだ。

【委員】

もう世界的に知られているといつてもいい人たちだ。

【委員】

楳図かずおさんが歩いているから吉祥寺に見に来る人がいるくらいだ。

【委員】

単純に集客ということを考えると、堅い学者や作家よりも漫画家を取り上げるとかなりの人が集まるだろう漫画を取り上げて、きちんと展示をするなどどうか。

【市長】

手塚治虫のミュージアムの来館者は減っているそうだ。いろいろ悩んでいた。

【委員】

それはやり方だと思う。リピーターをどう獲得するか、後の企画をどうするかということがすごく重要だ。

【委員】

昔は漫画なんて読んでいると怒られたものだった（笑）

【委員】

今の漫画の奥行きと深さは相当のもの。いいものは文学とは違う新しいジャンルを形成しあげているという印象が強い。

【委員】

私の子どもが50年くらい前の漫画を読んでいてとても面白がっていた。

【委員】

吉祥寺美術館の企画展で試験的に少し漫画をテーマにしたものをテスト的にやってみて反応をみるのはどうか。武蔵野の風景が見える漫画を並べてみるとか、70年代の武蔵野を描いた漫画を集めてその隣に写真も並べるとか。

【委員】

それは、すごく面白いと思う。このリストにある様な人たちは大御所だから、展示をすれば人は来ると思う。

【委員】

美術館か博物館かとか区別がつけにくい。逆に区別をつけてしまうと、縛張り争いみ

たいになってしまう。もう少し互換性のある関係であるべきだ。歴史資料館も横の関係をちゃんとしないと。

【委員】

その通りだ。縦割り的にお互いが関係無いということはお役所的であって、横のつながりをもっと大事にすべきだ。美術館も変わらないといけないという風潮はある。学芸員ももっと市民とのつながりをつくらなければいけないと思う。

【委員】

今までの博物館の弊害は、学芸員が永久雇用で収蔵品を自分のコレクションのように考えている人がいる。もっと営業センスのある人が必要な時代だ。

【委員】

他の県や市で文化施設を見ると、学芸員の方で公開すると収蔵品が痛むのを嫌がる人もいる。

【委員】

学芸員の人がその館を出るか、収蔵品についての論文を書くまで公開しないなんていう人もいる。博物館、美術館で今度一括採用して、教員と同じように2、3年で交代させるようにするといいと思う。

【委員】

学芸員の間にも競争心を持たせるようにしない。

【委員】

今は、他の館との横のつながりがないからお宝が埋もれてしまっていると思う。図録はみんなまじめにつくるが。

【市長】

美術館がなかったときは年に2回くらい展覧会をやるごとに図録を作っていた。

【委員】

図録も買っても見る暇がないという人は多い。

【委員】

値段が高いし、場所も取る。

【委員】

一つ目玉があったらみんなが来るわけではないと思う。遺跡をやったりマンガの展示をやったりと回していくのが大切だ。遺跡にこだわる人もいれば、マンガにこだわる人もいる。そうやって企画を上手に回して集客が得られるのでは。歴史資料館はいろいろと思い付くが、公文書館についてもどうやって見せるのかという企画パッケージが必要だ。一般来館者だけでなく、ムーバスのときのように全国の自治体から見学に来る人のためにも、武蔵野市が先導となるような新しい公文書館のありかたを構築することも重要だと思う。

【委員】

歴史資料館に対してはいろいろな企画が出るが、公文書館にも活用のしかたがあるのではないか。

【委員】

収蔵庫のなかにずっと眠っていたお宝が発見されたなんてこともあります。公文書にもまだまだ価値のあるものが眠っているはずだ。

【委員】

その施設のなかで完結するのではなく、他の場と共に使いながらシステムとしての歴史資料館という考え方だ。

【委員】

浦安の施設を見ると、イベントの情報があそこで発信されているから行くという雰囲気がある。

【委員】

武蔵野市には情報の発信基地がない。

【委員】

どこから発信されているのかが分からない。コミセンだったり小学校だったりバラバラである。そういう視点から浦安はとても参考になった。郷土料理、乗船体験、貝殻細工、火おこし、竹細工、凧づくり、干潟観察、縁日、お月見、もちつき、正月かざり、それに大掃除まである。季節に応じたいろいろな体験講座を市民とか子供たちに向かってあそこから発信している。新聞も出していたし、といったさまざまな情報がいっぱい載っていた。企画もイベントも関連して展開されていて、ほんとによくやっているなあと感じた。

【市長】

今日はいろいろなヒントが出てきた。浦安市のような生活や行事に光をあてた「生活の中の学校」という案、一種の生涯学習の中から歴史を振り返るということ。それから、最初に出てきたマンガ家の例にもあった「武蔵野に住んでいる人たちの活動が地域とどういう関わりがあるか」ということ。さらに公文書館においては、「ムーバスはどのようにできてきたのか」など公文書を素材としながら、行政がどういうことをやってきたかということを見せる。地租改正の文書資料を見せるだけではなく、講座を連動させたりとかの展開もできる。また地方自治体の人たちに「武蔵野の行政施策」を映像で見せたり、という考え方もあるだろう。いづれにしてもソフトが大事だということだと思う。

【委員】

コミセンでも地域の歴史展とか生活の行事などはやっているが、歴史資料館がそれをもっと広い視野でやる。その核になるということが必要なのではないか。

【委員】

それを運営する人も大事だと思う。